

小麦の収量安定化に向けた雑草対策の検討

1 対象

小麦栽培経営体 2 経営体

2 背景

管内では令和 6 年産において、小麦栽培経営体 13 経営体が日本麺用小麦「きぬあかり」及びパン・中華麺用小麦「ゆめあかり」を 152ha 作付けており、面積拡大が進んでいる。一方、連作ほ場の一部で雑草の多発していることが問題となっている。現在、積極的な雑草対策は実施されておらず、雑草の繁茂による収量減が懸念される経営体に対して、雑草対策を検討する必要がある。

3 活動の内容

- (1) 調査ほの設置支援及び雑草調査
雑草対策の検討のため、対象者に対し、調査ほ（対象者 A：試験区 1 及び試験区 2、対象者 B：試験区 3）の設置を提案し、了承された。調査ほごとに 1 m² × 4 か所の雑草本数を調査した。
- (2) 調査結果の取りまとめ及び検討
対象者 A では、試験区 1 が試験区 2 よりも雑草本数が少なく、防除効果は優れていた。対象者 B の試験区 3 では耕起によりすき込まれた雑草が再生したため、雑草本数は多かった。調査結果を対象者に報告し、雑草対策について検討したところ、試験区 1 の防除法でより効果的な雑草防除ができると思われた。
- (3) 小麦栽培経営体への情報提供
小麦栽培研修会において、小麦栽培経営体に対し、調査結果を周知した。また、今年度の調査結果を令和 7 年度栽培暦に反映し、防除指導を行った。

表 1 試験区の構成

区	雑草対策
試験区1	耕起前のグリホサートカリウム 塩液剤散布 + 耕起
試験区2	耕起 + チフェンスルフロンメチル 水和剤散布
試験区3	耕起 + チフェンスルフロンメチル 水和剤散布

表 2 雑草調査の結果

区	草種	雑草本数 (本/m ²)
試験区1	イネ科雑草	0.75
	広葉雑草	3.25
	合計	4.0
試験区2	イネ科雑草	2.5
	広葉雑草	15.75
	合計	18.25
試験区3	イネ科雑草	14.25
	広葉雑草	0
	合計	14.25

4 活動の成果

対象者は耕起前のグリホサートカリウム塩液剤散布 + 耕起を行うことで効果的な雑草防除が出来ることを理解し、2 経営体とも令和 7 年産の小麦栽培において、本雑草対策を実施する意向となった。また、小麦栽培研修会を通して、情報提供を行ったところ、その他の小麦栽培経営体においても小麦の雑草対策に対する意識が高まった。

今後も令和 7 年産の小麦栽培において引き続き、雑草対策について指導を行っていく。